

# TOKSAVE LONG PNG

## Vol.3

St.Mary's Primary School編

こんにちは。パプアニューギニアで理数科教師として活動しています。任地での活動も1年をすぎました。活動も折り返しとなり、活動も積極的に行って行きたいと考えています。



## セントメリー小学校は元気いっぱいです！！

今回は、私の赴任先であるセントメリー小学校の様子をお届けします。セントメリー小学校は、日本の小学校3年生から中学校2年生まで相当の生徒達が在籍しており、生徒数は約1,000人です。日本とは異なり、学年と年齢は関係なく、同じクラス内に様々な年齢の生徒が共に仲良く勉強しています。

授業は、基本的に全教科英語で行われています。パプアニューギニアの人々の現地語が英語にかなり近いこともあり、僕が中学生や高校生だった頃よりも、こちらの小学生の方がしっかり英語でコミュニケーションできます。私はこの学校で、7年生(日本の中学校1年生相当)に対して、数学と理科の授業を担当しています。私も語学は苦手だったのですが、必死に英語で教えています。

現地教員、生徒ともに数学に対する苦手意識が非常に強いです。日本では、みっちり教わる四則演算も、苦手としており、私の担当している7年生であっても、九九をすぐに答えられる生徒は多くありません。買い物での合計金額の計算やどのように買ったらお得かなどの実生活レベルで使う計算もできない事が多いです。このような状況を打破するために、我々ボランティアが派遣されている訳で、私からすれば、とてもやりがいのあり、また自分自身も学ぶ事が多い経験になっています。



### 授業風景

生徒は、真剣に話を聞いてくれます。写真は理科の授業中です。大気圧を感じてもらうために、コップと紙を使って簡単な実験を実演しているところです。生徒たちのリアクションはとても良く、時には歓声をあげながら実験をしています。

# 学校風景



(上) 教室の様子

(中) 職員会議の青空教職員室  
職員室はないため、職員会議はいつも大きなマンゴーの木の下で行います。

(下) 生徒たちの登校風景  
校庭は芝生で、休み時間は生徒たちがサッカーをしたり、走り回ったりしていつもにぎやかです。

## ボランティア教師として思うこと...

セントメリー小学校に赴任して、半年以上が経過しました。日本とは異なり、個人用の教科書はなく、クラス内では、学校所有の教科書を貸し出すという形がパプアニューギニアの学校では一般的です。また、1人1冊の教科書はなく、近くの生徒同士で見せ合いながら授業が行われています。そういった背景が大きく影響していると感じますが、現地の教員は、教科書の文字をノートに写すことをよく指示し、生徒も時間をかけて一生懸命、教科書の内容を写します。多くの生徒が簡単な四則演算を行うことも困難な状況ですが、それに対して、教科書の内容は、今の生徒達にとってかなりレベルが高いです。書いている本人でも何を書いているのか内容を理解せずに、ひたすらノートに文字を写している姿を見て、ショックを受けました。どうかしてこの生徒達に学ぶ楽しさを実感してほしいと心から思いました。

高校や、大学へ進学するためには、お金もかかりますし、すべての生徒ができるものではありません。有名な大学を卒業して、有名企業に入るといった目的の為に勉強する生徒は1人もいません。そんな環境だからこそ、改めて『なぜ人は学ぶのだろうか?』と考えるさせられます。今は、生徒に学ぶ大切さ、考える楽しさを理解して欲しいと毎日、授業を行っています。

下の写真は、独立記念日に撮った生徒との写真です。小学校ですが、我々から見るとかなり生徒が大人びて見えるのではないのでしょうか。みんな、とても優しく、教えた日本語で挨拶してくれる生徒も沢山います。



## 授業外の生徒たち・・・



パプアニューギニアでは、多くの国民がキリスト教徒であり、セントメリー小学校もカトリック系の学校です。授業前には、お祈りをしてから授業を始めますし、教会でミサを行うことも多くあります。正装しているかわいい子供達の2枚の写真は初めての聖餐となる特別なミサ後の写真です。いつもは雨が降ろうと、雷が鳴ろうとも、外で走り回っている生徒達ですが、この日は、服をきめて、いつもより大人びた振る舞いをしていました。

また、草で作った衣装を着てる生徒達は、日本で言う、お遊戯会とか学芸会みたいな日の1コマです。彼らは、『シンシン』と呼ばれるパプアニューギニアの伝統的な歌とダンスを披露してくれました。パプアニューギニアの子供達は意外に恥ずかしがりやが多いのですが、一度、ふっきれると一気に元気が溢れ出します。『シンシン』については、次回のお便りで詳しく紹介したいと思います。地元のフェスティバルを見学に行きましたが、心が揺さぶられるような感動がありました。

赴任して1年が経過し様々な経験をさせて頂いています。異なる文化に戸惑うこともありますが、この子供達の笑顔が、いつも不安を吹き飛ばしてくれます。この笑顔をいつまでも絶やさずにもってほしい、そのために何かできることがあれば、全力で活動していきたいです。まだまだ学校のことについてはお知らせしたいことが沢山ありますので、また今後、少しずつですがお伝えできたらと思います。

今回は、パプアニューギニアの文化『シンシン』をお伝えします。沢山の写真で皆様にも雰囲気味わってほしいと思っています。では、Lukim yu (ルキムユ :現地語で『またね』)!